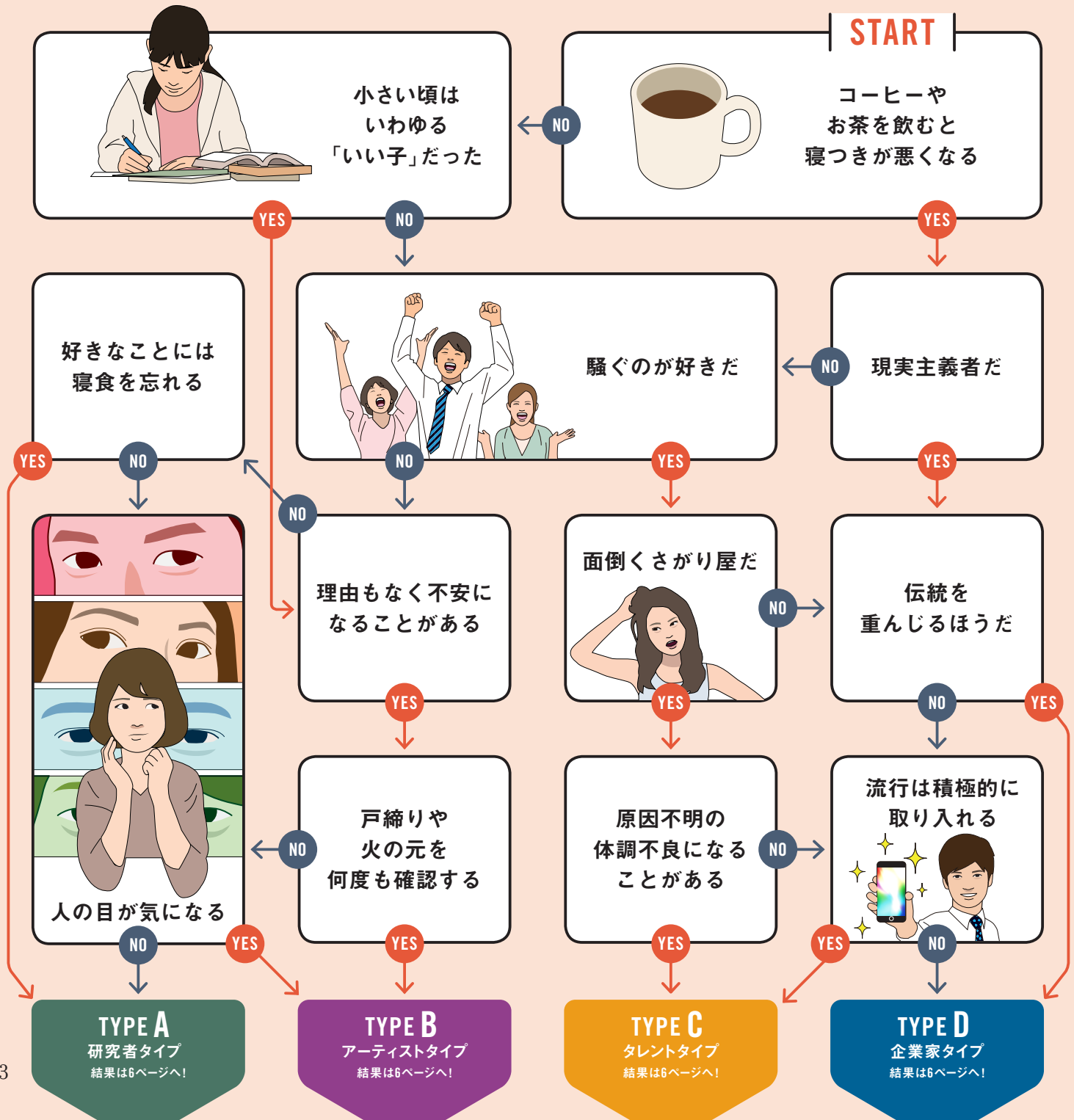


あなたが陥りやすい仕事のピンチは？

「ピンチはチャンス」という言い方がありますが、ピンチに陥っても、切り抜ける過程で成長できるという意味だとYELLは考えます。ピンチから成長の流れを作るために、まずはチャート図であなたが陥りやすい仕事のピンチを見てみましょう。



先輩に聞く

ピンチの切り抜け方

ピンチに陥った時、先輩たちはどうしたのか？
何を考え、誰に頼ったのか？
ピンチをどう切り抜け、次のレベルに至ったのか？
先輩たちに語ってもらいました。

pinch 1

メカエンジニア
一基数億円の半導体製造装置の開発を若手チームで担当する。



半導体部品の不具合を 仲間の協力で乗り切る

半導体製造装置を開発する会社のメカエンジニアです。若いうちから「やってみたら」と仕事を任せてもらえる環境なのでとてもやりがいがあります。
自分一人が担当で、2カ月かけて設計してきた部品が接続できず、原因がわからないまま納品まで2週間を切ったことがあります。こ



のままでは会社に大きな損失を与えてしまうとパニック状態になりました。
その時、気が付くと他の部品を担当している仲間が集まって、不具合の原因究明に力を合わせてくれています。
それまで仲間に頼るという考えはありませんでしたが、無事に納品できた時、「仲間を頼ることで、一人では不可能なこともやりとげられる」と気づき、初めて組織の強み、チームで働くことの心強さを実感しました。仲間がいれば何とかなる、と安心して仕事に取り組めるようになりました。

pinch 2

レストラン勤務
地元の高校卒業後、東京の調理学校へ。今の夢は自分の店をもつこと。



働いていた店が閉店 故郷の「町おこし」に 救われる

働いていた東京のイタリアンレストランが閉店することになり、新しい職場を探していたのですが、なかなか見つかりませんでした。悶々としている中で帰省した時、近くの商店街に「町おこし」の計画があるという話を聞きました。

実家周辺の商店街はどこも、いわゆる「シャッター通り」です。僕は職場をなくしてピンチでしたが、故郷もピンチだったんです。「町おこし」にすごく興味を引かれました。地元出身の建築家がUターンして、定住して参加するという話でした。一過性のものではないと感じました。商店街には新しくレストランもオープンする予定で、人も募集するということがありました。

すごく迷いました。東京でまだ何もできていないという思いも強くあってモヤモヤしていたのですが、Uターンを決意したのは、好きな料理の仕事を続けられることに加



えて、自らの技術で「地元の役に立てる」というプラスアルファがあることでした。
今はそのレストランで働いて2年です。県外からこの店の味を目当てに足を運んでくれる人もいます。地元商店街のピンチを知ったことで仕事への意識が変わり、ピンチを脱することができました。
今は、「好きな仕事はどこでやっても好きな仕事だ」と胸を張って言えます。作った料理で地元に戻ることができる、とてもやりがいのある仕事だと思っています。

自分の仕事に 疑問をもつ経験 それがチャンスを生む



**アーティスト
藤元明さん**
1975年東京生まれ。「社会」「エネルギー」「象徴」などをテーマに作品を発表。

仕事のピンチというミスや経済的なもの、人間関係に起因するものなどが思い浮かびますが、自分の仕事に対する疑問がわいた時こそピンチではないかと思っています。
「自分はいったい何をやっているんだろう？」と思った時です。どんな仕事をしていても、この思いを抱くことはあるでしょう。そして、そう思うには必ず理由があるはずなんです。

私はアーティストという仕事をしてきて、「自分がやっていることは何だろう？」「アートって何だろう？」と思う局面が何度もありました。
仲間と始めたクリエイティブ系の会社でお金の分配などでギクシャクした時には「こんなことのための仲間との仕事ではない」と思ったものです。
いくつかのピンチはありましたが、その都度、仲間から誘われる形で、新しいプロジェクトに参加するなどして、アートへの見方を見つめ直すことができました。自分の仕事について考える



「2021」(2016年)。2021をかたどったオブジェを制作し、各地に置くパフォーマンスを進行中。

ことで、次の目標ができ、いつのまにか切り抜けたピンチはチャンスになっていきました。

その一つが、大学時代からの友人の誘いで参加した「リバープロジェクト」という試みです。「地球環境のピンチ」に、アートがどう取り組めばいいのかというテーマが生まれました。

今は「2021年」をテーマにしたシリーズを手がけています。「ピンチ」という概念を考えることで作品が生まれた例です。1964年の東京オリンピックの翌年に、特需の反動で日本全体が一時的に元気を失ってしまったという記事を読みました。日本に限らず、オリンピックを未来に生かすのは難しい。2020年の東京オリンピックが盛り上がったとしても、その後、21年も日本は元気でいられるのか？オリンピック後をみんなで考えよう、動き出そうという投げかけです。

ピンチをどう切り抜けたいのかを考えていけば、必ず自分の仕事について深く考えることになります。そこから道が開けるとするのが私の経験であり、実感です。